

未来に伝えてほしい  
歴史があります。

1945年8月6日、広島は原子爆弾で焼き尽くされた。  
家族の思い出も、子どもたちの笑い声も。  
戦後、危険と知りながら大きな力と戦った先人たちがいた。  
ある人は震える手で惨状を撮影し、ある人は事実を書き続けた。  
そして命がけで、その記録を守った。  
未来を生きる子どもたちが、笑顔で、幸せであるために  
いま、私たちに何ができるだろう。

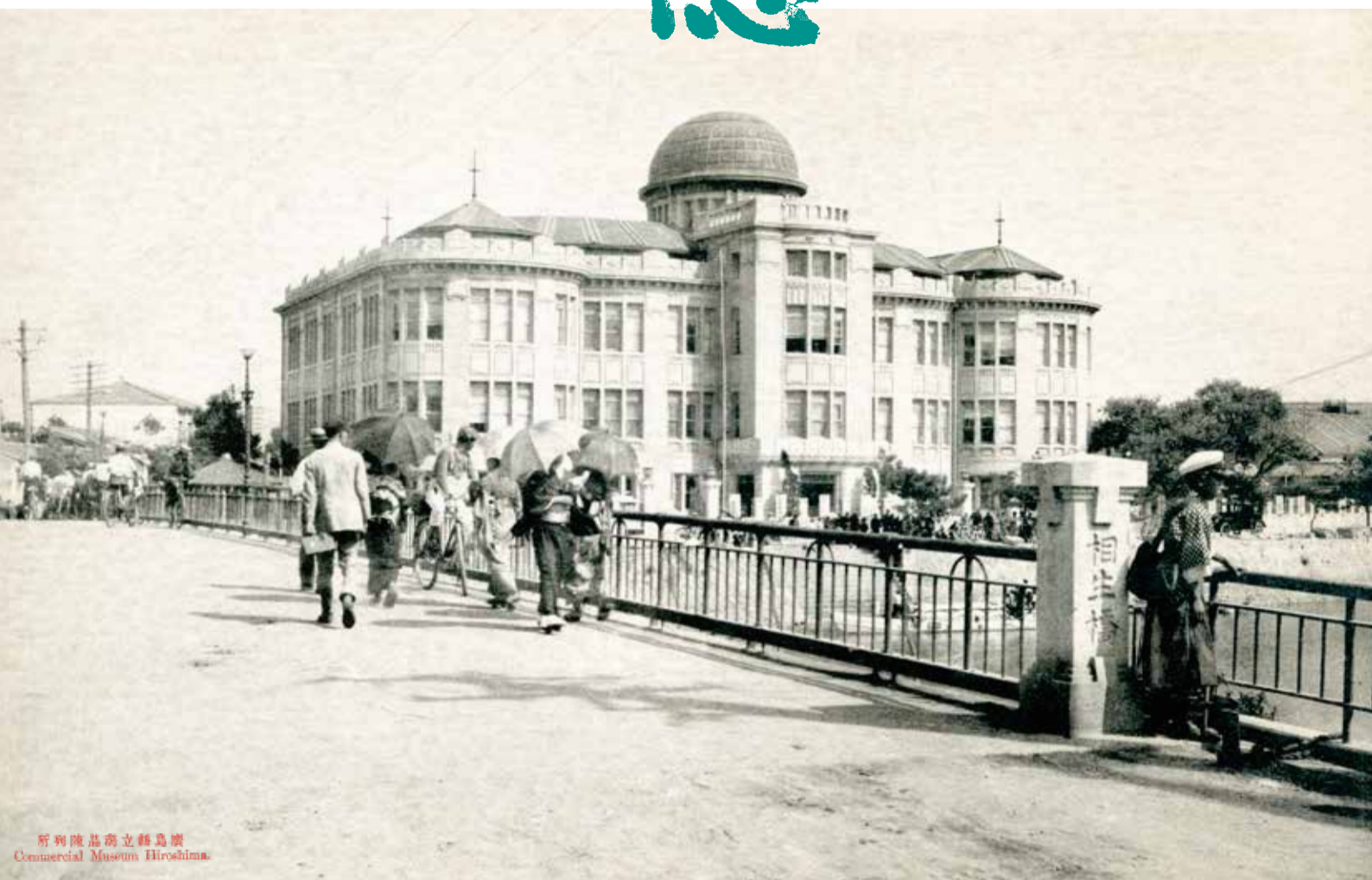
# 広島 の記憶

戦前の廣島の街 写真：松本若次・画：福井芳郎・四國五郎・絵葉書  
ジョン・ハーシー『HIROSHIMA』  
吉田初三郎『HIROSHIMA』  
土門拳『ヒロシマ』

2023 6月17日(土)～8月27日(日)  
11時～17時(入館は16時30分まで) [休館日] 月曜日(祝日7月17日は開館)

入館料 一般 300円 学生(高校・大学生) 100円 中学生以下無料

主催 公益財団法人泉美術館・中国新聞社 協力 広島平和記念資料館 広島市公文書館・土門拳記念館・NPO法人広島写真保存活用協会  
後援 広島県教育委員会・広島市・広島市教育委員会・中国放送・広島テレビ・広島ホームテレビ・テレビ新広島・広島エフエム放送・FMちゅーピー76.6MHz



新刊陳品商立館島廣  
Commercial Museum Hiroshima

相生橋(東橋)より広島県立商品陳列所(1933年 産業奨励館に改称)を望む  
昭和初期の絵葉書(一部デジタル処理) 個人蔵

公益財団法人

泉美術館



昭和初期の産業奨励館を相生橋から望む 撮影:松本若次 (提供:川本静枝)

本展は「戦前の広島」と「占領下のヒロシマ」の2つの視点から、その歴史を考察していきます。

「戦前の広島」では、原爆により多くの記録資料は消失。奇跡的に残った資料から、軍都へと向かう戦前の広島を振り返ります。「占領下のヒロシマ」では、連合軍の統治下にあった日本で、原爆の被害を伝えることができず、プレスコードという言論統制のなか、主権が回復する1952年まで公表できなかった事実を検証していきます。多くの写真や記事は検閲を受け、没収、廃棄されました。いま目にすることができるのは、記録者たちが守った命がけの記録なのです。



新天地広場と花月新春のにぎわい 画:四國五郎 (提供:遺族)

# 伝えられなかったヒロシマ



スケッチ「昭和20年8月6日午前9時 福島町」画:福井芳郎 (所蔵:広島平和記念資料館)

## 戦前の記録

絵葉書に見る広島  
福井芳郎『がんす横丁』『思い出の広島百景』(複製展示)  
四國五郎『なつかしの廣嶋』(複製展示)  
松本若次の広島記録写真

## 占領下の記録

松重美人『なみだのファインダー』  
福井芳郎 原爆記録スケッチ  
佐々木雄一郎の記録写真  
木村伊兵衛・菊池俊吉・大木実『LIVING HIROSHIMA』  
吉田初三郎『HIROSHIMA』

## 米国の記録

ジョン・ハーシー『HIROSHIMA』  
LIFE誌に見るHIROSHIMA  
目標検討委員会資料 米国国立公文書所蔵(パネル展示)

## 主権回復後の記録

土門拳『ヒロシマ』・取材ノート(複製展示)

被爆当日の記録、松重美人の写真、福井芳郎のスケッチ。変わり果てた故郷を記録し続けた佐々木雄一郎。木村伊兵衛、菊池俊吉、大木実らの『LIVING HIROSHIMA』の記録。吉田初三郎が描いた『広島原爆八連図』。被爆12年後に初めて広島を訪れ、いまだ残る原爆症の恐怖を伝えるべく撮影に挑んだ土門拳。中国新聞の報道記事や、海外報道からはキノコ雲の下の惨状を初めて伝えたジョン・ハーシーの報道記事、米国国立公文書館所蔵の目標検討委員会資料など。これらの貴重な記録を、国内外の視点から検証していきます。

その刻まれた記憶が、未来を生きる子どもたちの「平和への道標」となるために。



昭和20年8月6日午前11時すぎ 御幸橋西詰 撮影:松重美人 (所有:中国新聞社、所蔵:日本写真保存センター)



- JR山陽本線「新井口」駅より徒歩約15分
- 広電宮島線「草津南」駅より徒歩約10分
- 駐車場無料 エクセル本店駐車場をご利用ください



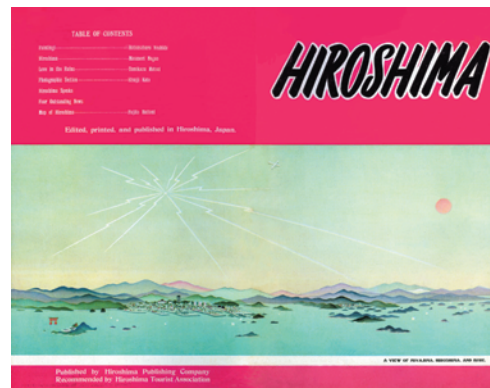
公益財団法人

## 泉美術館

〒733-0833 広島市西区商工センター2-3-1 エクセル本店5階  
TEL 082-276-2600 FAX 082-276-2612  
<https://www.izumi-museum.jp/>

関連イベントについては、美術館公式サイトをご覧ください。

『HIROSHIMA』(広島図書 1949年)表紙 画:吉田初三郎 (提供:©アソシエイトの資料館 吉田初三郎コレクション)



被爆者同士の結婚 小谷夫妻 撮影:土門拳 (提供:土門拳記念館)